心の散歩道

282
毎月発行

※ポストに入れさせていただきましたことをお許しくださいませ。

心が聞こえる

ストレス社会を生きるなかで
胸にためこんだ行き場のない思いを
だれかに少しでも聞いてもらうと
気持ちが楽になります

そうは言っても
だれにでも話せるわけではありません
やはり親身になって聞いてくれる
信頼できる人だからこそ
話ができるのではないでしょうか

私たちがそのような人々にとって
なんでも言える人になれたら
それだけでも素晴らしい
人だすけになると思いませんか

「言える」ということは
「癒える」ことにつながるのです

■私たちの信仰させていただいている神様は**天理王命（てんりおうのみこと）様**と申し上げます。
何も無いところから人間世界を創造された神様です。
私たちは、天理王命様を**親神様（おやがみさま）**とお呼びして、お慕い申しております。
■天保九年（1838）、親神様の御教えが、**教祖（おやさま）中山みき様**によって、初めて伝えられました。

心の種まき

人間の心というものは
善き心で居るときもあれば
一転して悪しき心が顔を出す
というように、一日のうちに
コロコロと変わるものです。

親なる神様は、そんな人間の心づかいや
おこないを「種まき」にたとえて
私たちにお教えくださいました。

時が経てば、人は自分のしたことや
思ったことを忘れてしまいます。
ですが、まかれた種は残りつづけ
善き種には、よろこびの芽が
悪しき種には、かなしみの芽が
いつの日か必ず芽生えてくるのです。

「日々嬉しい一つの種は、
一粒万倍に成りて日々治まりて来る。」

（明治二十四年十二月十九日　おさしづ）

一日のうちのどんな小さな事柄でも
善き心の種まきを心がけましょう。
そんな心がけで毎日を歩めば
一粒の種からたくさんの実のなる人生へと
きっと変わってゆくことでしょう。